



## 帰宅させる対応をめぐって

子どもの行動上の問題が、学級経営や学年経営、時には学校経営までも揺るがす状況は、今や小学校では決して珍しいことではなくなっています。中でも特に、

- 誰の指示や制止も効かず、危険行為・迷惑行為が続くとき
- 興奮状態が長く（おおむね1時間以上）収まらないとき
- 本人が「帰りたい」と主張し、その事情が理解できるとき



などでは、保護者に迎えに来てもらい、帰宅をさせる対応をとることもあります。

校長として帰宅の判断を下すのは難しいものですが、目安は次のような場合でしょう。

- ◎ 行為の不適切さが、学校から一旦身を引かせなければならないほど重大な場合
- ◎ 校内ではリセットが困難であり、家庭に戻ってのリセットが適切と判断される場合

要は、「今日、この後の学校生活を続けることは、本人及び／又は周囲の子に辛い思いを強いるばかりで、適切でない場合」です。

どうなったら呼ぶのか（問題状況の内容と程度）、何のために呼ぶのか（目的）は、全職員又は関係職員で検討・協議し、共通理解を図っておきます。あまりに頻繁では、保護者に過重な負担を強いたり、学校への不信を招いたりすることになります。保護者の仕事や体調など個人的な事情の考慮も必要です。

「学校は教育を放棄している」などの誤解を招かぬよう、「児童（生徒）が〇〇〇〇なときは、□□□□のために、保護者にお迎えをお願いする場合がある」との学校の方針を、学校だより等であらかじめ全保護者に周知し、理解と協力をお願いしておくことが、足場固めとして大事です。〇〇〇〇には上記□□□□のような内容が、□□□□には当該の子にとって必要であり、その子の利益になるようなねらいが入ります。例えば「気持ちをリセットして、明日、笑顔で登校できるため」などです。

学校（校長）が指導方針等をはっきりと示し、一人一人を大切にしていること（特別支援教育を重視・推進していること）を前面に打ち出すことに対して、ほとんどの保護者は好意的に受け止めるはずですが、

問題が重篤化し、保護者の不安や不満があちらこちらで吹き出してから対策に乗り出すのでは、対応が後手と受け止められ、学校への批判の声が広がってしまいます。先手をとってアナウンスすることが大切です。



子どもが帰る際は、「明日待ってるよ。笑顔で会いたいな。」などの言葉をかけて見送ります。リベンジのチャンスは、すぐまた明日あるところが出席停止とは異なります。午前中の帰宅であれば、本日中の再度の登校を認める方法もあります。

子どもによっては親への連絡や迎えを嫌がり、荒れがエスカレートする場合がありますが、対応はあくまで学校の方針に沿って行い、「残念だけど今日は帰ります。これから〇〇〇が迎えに来ます。おうちでリセットしてください。」と言って線引きをします。

担当 学校生活適応支援アドバイザー（飯山・大瀧）  
TEL 639-4392